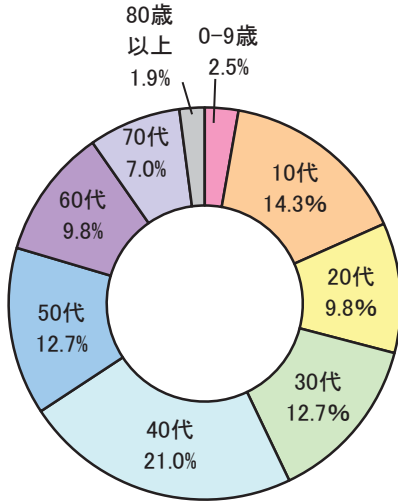


「黄金のアフガニスタンー守りぬかれたシルクロードの秘宝」 アンケート集計結果

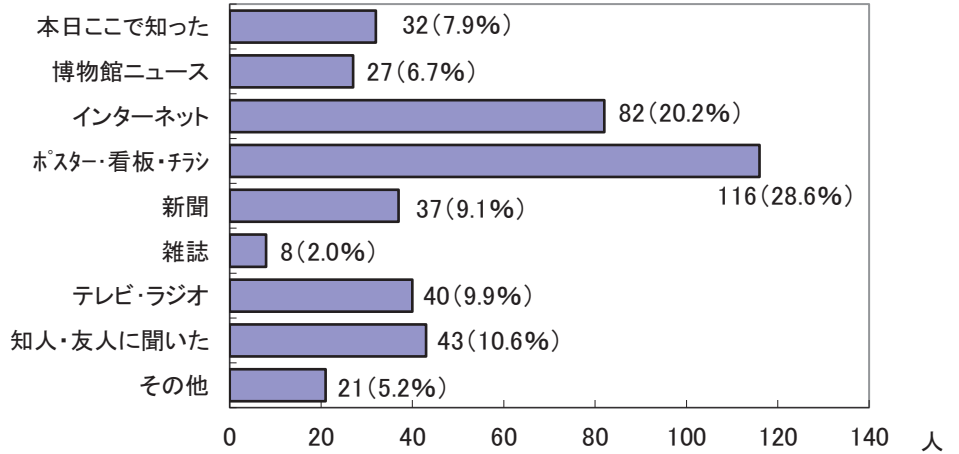
開催期間：平成28年4月12日（火）～6月19日（日）（61日間）

回答者数：315人（総入館者数：154,875人 アンケート回収率：0.20%）

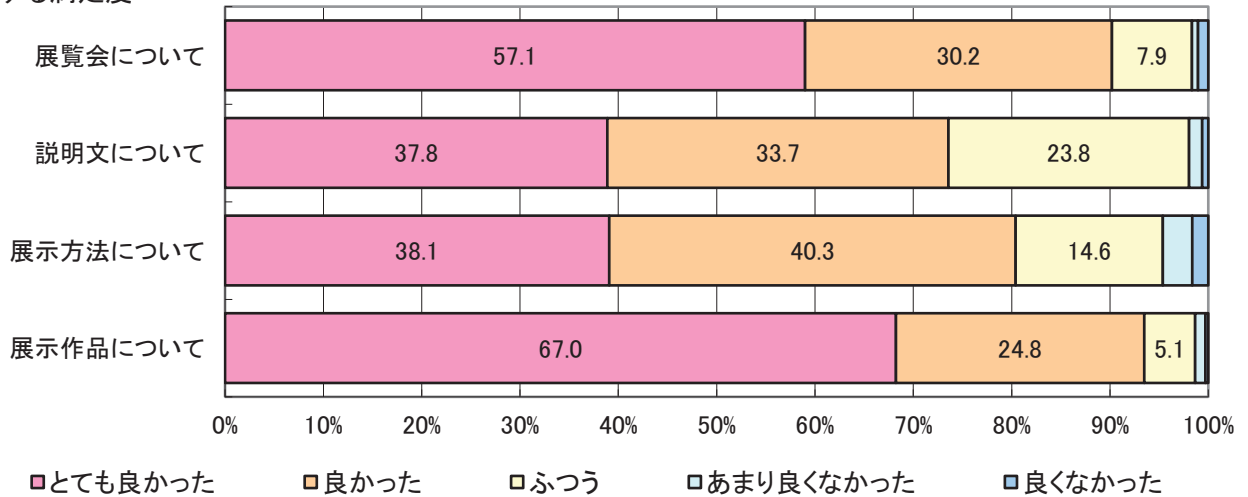
①アンケート回答年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・文化財は世界中の人々とその後世の人々の宝物だと強調されていてよかった。
- ・戦禍をくぐり抜けた作品(黄金装身具・ヘラクレス立像等)は見ごたえがあった。
- ・文化財を保護する意義と情熱の伝わりとても良い展示だった。
- ・キャプションの文字が大きく見やすかった。
- ・今まであまり見たことがない分野の展覧会だったが、分かりやすく、興味がひかれるように作られていると感じた。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	0.6	1.0
説明文	1.3	0.6
展示方法	2.9	1.6
展示作品	1.0	0.3

(%)

本展覧会では、紀元前2100年頃から紀元後3世紀頃までに古代のアフガニスタンで栄えた文化をご紹介します。これらは、1979年のソ連の軍事介入、内戦などで博物館は甚大な被害を受け、その多くが永遠に失われてしまったとみられていました。しかし、国立博物館の職員たちにより秘かに大統領府地下の金庫などに移され、その後14年もの間、静かに守り続けられていたことが2003年に判明します。本展は、この秘宝の再発見を契機に、アフガニスタンの文化遺産復興を支援するために企画された国際巡回展です。古代アフガニスタンの至宝231件に加え、日本で「文化財難民」として保護・保管され、この機にアフガニスタンに返還されることとなった流出文化財の中から15件が出品された本展には、15万人を超える方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して87%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「作品とキャプションの位置が離れていて分かりづらい箇所があった」「休憩用の椅子が少ない」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。